


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	MCS愛の家運営理念 3項目		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	愛の家GH久喜吉羽 運営理念 2項目 フロア - 目標 3項目		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会や運営推進会議、自治会等でホーム活動や取り組みについて報告している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	1. 散歩や買い物時のあいさつをしている。 2. 行事(納涼祭)の声かけをし、参加いただけるよう、ポスター等でも周知している。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	1. 自治会の活動に入居者と一緒に参加している。 2. 中学生や高校生ボランティアを受け入れ、ふれあいの場を設けている。		近隣の他施設とも行事等の呼び掛け、参加をし交流の場を持っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>家族会、運営推進会議、自治会等での話し合い、他施設との交流を行っている。</p>		<p>民生委員と協力の下、地域の独り身の高齢者に対し、ホームを開放、行事の呼び掛け、参加を行っていききたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>理念を実践するにあたり、以前の評価を確認し、常に見直し、自己評価し続け、質の向上を図る。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>全5回の運営推進会議を実施する中で、ホーム活動報告、今後の取り組みを含め、理解、意見を頂き、家族、地域と共に活動している。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>自ら足を運び、運営推進会議、家族会についての報告を随時行っている。市町村からの相談、見学依頼も行っている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者としては、本部より成年後見制度等の内容、説明は受けているが、現在はそのようなケースはない。</p>		<p>今後は必要性に応じて、活用するケースもあり、全スタッフにも周知し理解を深めていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待、身体拘束廃止、取り扱いの資料を常にフロア - ごとに閲覧できるようにしており、フロア - 会議等でも話し合いの場を持っている。</p>		<p>「虐待」とは、どこまで入るのか、スタッフ一人一人に認識させ、会議等でも確認させている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、入居の始まる段階から、退去、解約の終わりの段階に至るまで、日々入居者や家族には説明、理解をしており、その都度、疑問や質問があれば対応している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常にホーム内に相談・苦情窓口一覧を掲示し、意見箱、本部ヘルプデスクの設置をしている。また、もし入居者より意見、不満、苦情があれば、すぐに管理者や職員に話せるような環境、雰囲気作りに心掛けている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>1・フロア新聞作成し、毎月行事報告をしている。 2・毎月、個別の報告書(手紙)を作成している。 3・面会時、日々の様子を連絡している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>1・苦情相談窓口を設けている。 2・家族会議を定期的に関き、その場で質疑応答している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、フロアおよび全体会議を実施し、ケアの統一・向上にむけ意見交換し、実施している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>家族と入居者の受診時に、希望があればホーム長や事務員、スタッフが同伴する。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>1・離職希望者が出た場合、それを避ける為に、本人とホーム長間でよく話し合う。</p>	<p>引継ぎを正確、確実に行い、入居者に不信感や大きな環境変化を与えないように努めている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の意見を取り入れ、意見交換の場を設けている。 個々にあった研修への参加。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他福祉施設の見学、研修時の意見交換。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	1・休憩中は、入居者と別室にて取る。 2・水分補給を兼ね、気軽に喫茶できる場所の確保。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	1・個々の意見を取り入れ、試み、学ぶ。 2・会議等での意見交換の場。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	実調時に、入居希望者の趣味・好きな物等を聞き取り、生活暦・既往歴についても、細かく知る。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族サイドの意向をできるだけ取り入れられるよう、十分に聞き取りし、また、行う上での必要な情報提供をして頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相手の希望に添う、添えないかを知る為に、できるだけ沢山の情報収集をする。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームでの共同生活に慣れていただくのはもとより、個人の居室では、なるべく使い慣れた家具や雑貨を使用し、いただくよう、入居時に家族からの協力を得ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	だれもが、各自の得意分野において担い手となっていた(例)調理・家事・園芸等		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	支援して行く上で、極小さな出来事でもオブラートに包まず、家族へ伝える。		家族から、入居者のライフスタイルについて聞き取りをし、個性を活かした個別ケアに尽力していきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者の日常の様子を、面会に来られる家族にも、そうでない方にも、解りやすく、又伝わり易く報告する。フロア新聞や、個々の報告の手紙などにて、実行している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る範囲でだが、入居者の故郷・思い出深い場所へ一緒に出掛ける。また、外泊などにより、帰郷して頂く。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日中は、なるべく居室にこもらず、入居者同士で談話して頂く。(例)食事・体操・散歩等		もっと、入居者が「隣組」的感覚で支え合って頂けるように、雰囲気作りをする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>運営推進会議、家族会に出席いただく。</p> <p>イベントに来ていただけるよう、積極的な声かけをする。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者が大切にしてきた生活習慣を、集団生活の中でも継続していけるように努めている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に、家族からの協力のもと、使い勝手のきいた家具や衣類、食器をお持ちいただく。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎朝のバイタル情報を記録している。</p> <p>無理強いする健康管理ではなく、自ずから、管理して頂けるようにもって行く。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>スタッフが各自担当後入居者を割り当てられ、ケアプランを考える。また、スタッフ全員が周知できるよう、カンファレンスを定期的に開く。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプランを基本とするケアを実施するが、必要に応じ、家族との相談の上ケアプランの見直しをする。</p> <p>毎3ヶ月ごとのケアプラン更新をしている。</p>		<p>プラン作成時、第3者の意見も多く取りれる等、よりアセスメントをしっかりと行っていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録とは別に、細かな個々の情報を申し送れるよう、記録用メモを使っている。 日常の会話の中で、常に入居者についての情報交換をしている。		業務内で、介護記録時間を徹底して確保する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	偏食のある入居者にも召し上がっていただける食事の提供。 外部との交流を積極的にしている。 入居者に必要な福祉用具を、速やかに手配する。 看護師との綿密な相談の実施。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣のボランティアの受け入れ・依頼。 近隣教育機関からの、研修・実習・体験学習の受け入れ。 地域のイベントに敏感であり、なるべく参加できるようにスタッフ人員を整えている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理容・マッサージ(リハビリ)・歯科治療の依頼。 近隣福祉施設との係わり合いを持つ。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の場で、話し合いを持っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームが医療連携をとっている医療機関以外にも、家族からの希望・入居者との折り合いを考慮し、受診していただいている。 遠方に家族があり、受診時にきていただけない場合は、スタッフが対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者の状態に応じて、ホーム・家族・ホームドクターと検討し、専門医に相談、紹介を行っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけの医療機関で勤務している看護師や、医療連携上契約している看護師との綿密な打ち合わせをしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的に見舞い、医師からの情報提供をしていただく。入院されていても、当ホームの入居者である事を常に念頭に置く。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的にはターミナルケアは行わない方針。		家族からターミナルケアの希望があり、全面的な家族、医師の協力、ホームの人員体制が整えば、行なっていければと考える。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	基本的にはターミナルケアは行わない中で、ホームの生活として出来ない部分は、他職種へ相談、依頼をし、入居者の生活を支えている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護、看護サマリーや情報提供をしっかりと行い、移住後も本人との面会、家族との連絡を続け、引き続き安心した生活が保てるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	個別の入浴時間を設ける。 言葉の暴力を徹底して排除する。 個々の記録上に、他入居者を記載する場合は、イニシャルにて記録している。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者個々の意思を尊重するにあたり、声かけ方法に気をつける。意思決定が困難な場合には、選択肢をいくつか提案し、決定し易いよう流れを作る。	散歩以外は、一部を除いてホームにこもりがちな入居者に、視野を広げていただく為、外出の機会を増やして行きたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる生活リズムは決まっているが、その日の体調や気分によって柔軟に変更している。 入浴・散歩・食事を拒否されたり、やむを得ず時間変更しなくてはならない場合など。	入居者それぞれの目線での生活パターンを優先。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えの際、入居者の好みを聞きながら、服選びをする。 月一回の訪問利用依頼をしている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	オープンキッチンの特性を活かし、キッチン業務中に入居者と調理をしたり、ホットプレートなど、安全な調理器具を用いて共に食卓準備をしていただいている。	食事中の会話をもっと増やす。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙時は、必ずスタッフが付き添うようにし、食後の一服をして頂けるようにしている。 喫茶時は、個々の好みにあった飲み物を用意している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>各個人のトイレサインを把握している。</p> <p>排泄記録を密に行い、前回との間が長時間空かないように誘導している。</p>		<p>失禁をしてしまい、おむつかぶれや不快感を与えてしまわないように、トイレ誘導を定期的に行う。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>最低でも、週に2～3回は入浴して頂けるよう、チェック表を用いている。拒否された場合も、なんとなく入浴したい・・・という気分に持っていきけるよう、声かけをする。</p> <p>入浴剤の利用。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>19～20時以降は、フロアの消灯を心がけ、夜の時間帯を認知できるようにしている。</p> <p>昼夜のメリハリをつけている。</p> <p>毎日、同時刻に入眠を促す。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>個々の欲求を把握し、満たすようにしてる。</p> <p>例)嗜好品・散歩・歌など</p>		<p>個々の担える役割を増やす。スタッフが1～10までするのではなく、個々の潜在能力を引き出し、あくまでスタッフは生活面での手伝いをさせていただくという意識をもつ。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>防犯の為、普段は事務所内金庫にて管理しているが、入居者の要望があれば、財布を持っていただき、スタッフの付き添いのもと買い物へ行く。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>日課として、天気の良い日は散歩して頂く。</p> <p>社用車でのドライブ。</p>		<p>中庭の特性を活かし、会食や喫茶をして頂けるようにしたい。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>定期的な外出イベントを企画している。</p> <p>例)お花見・遠足・外食</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの希望と、家族からのご要望があれば、ホームの電話をしようしていただいている。 年賀状の実施。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時、居室にて過ごして頂く。 時間によっては、おやつと一緒に召し上がっていただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒の危険性がある入居者の見守りを徹底している。		「禁止されてる具体的な行為」についてはホーム長からスタッフへの説明を徹底する必要がある。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、及びユニット間の扉は開放しているが、玄関の開放は家族からのご意見も考慮し、開放できていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	休憩時以外は、入居者と同空間にて生活している。 徘徊している方には、見守りをつけている。 夜間の巡視については、2時間おきに実施している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々にあった、私物の管理方法を実施している。 例)ライター・刃物は、希望時に提供し、保管は、入居者の理解の上、スタッフが行う。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	訪問看護師からの、誤飲時、救急対応法実地訓練の指導を受ける。起きてしまった事故については、理由・経緯・防止対策方法を明確にし、スタッフ同士が相互確認する。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	町内の救命救急、AED講習会への参加。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の、消防署協力のもと、消防避難訓練を行う。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に、ホームでの、個々の特性を活かしたケア方針について理解を得る。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変動が少しでも感じられた場合には、即座にバイタル確認・リーダー・看護師・ホーム長への連絡、指導を仰ぐ。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表はファイルにまとめ、キーケースにも添付し、毎度確認できるよう徹底している。 服薬内容の変更時には、申し送りを確実にを行う。		口頭での申し送り時に臨席しなかったスタッフも、きちんとないよう把握できるよう努める。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	積極的に歩行を促す。 寒天・乳酸菌飲料を摂取して頂く。		下剤服薬者の軽減を図る。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	訪問歯科による口腔ケア。 毎食後の口腔ブラッシングの習慣化。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録に残している。 定期的にお茶や牛乳を摂取している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	定期的な入浴の実施。 入居者、スタッフ共に手洗いうがいを習慣付けている。 清掃の徹底。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチン内の清掃時、アルコールで消毒したり、漂白を行う。 生ものは、加熱調理し、内部温度を70度以上にしてから提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは危険要因となるものを置かない。 玄関内部に、ホームイベント時の写真を多く掲示し、来訪者には入居者の日常を感じて頂く。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内は、季節ごとに飾り付けを変えている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼談話室での、各席は決まっているが、その時々の入居者の意思で、好きな席に座ってもらい、談話している。居室の往来は基本的に自由である。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や小物を搬入し、元来の生活スペースに近い環境を作っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室は午前中に換気し、フロアはなるべく窓を開け、同時に換気扇を24時間回す。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを多く設置している。 入浴場・化粧洗面台・トイレは、入居者の使い易いように設計している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	スタッフ全員が、入居者個々の感情、行動に目を配り、自立援助をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭にて、バーベキューや昼食会をする。 中庭の畑にて、園芸作業を楽しまれている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

少人数制という集団生活の中で、入居者個々の欲求(～したい、～やりたい)を個別ケアとして、それを叶えられるよう支援している。近隣の他施設と協力し、レク、行事等でお互いに声掛け参加をし、事業所、入居者の交流を深めている。ボランティアの受け入れ、自治会の活動にも積極的に参加し、地域に開けた、地域に愛されるホームを目指し活動を広げている。入居者の「出来る事・出来ない事」をしっかりと見極め、集団生活の中でその人らしく個性を活かした生活を提供していきたい。出来る事を伸ばしていくのが第一前提であり、失敗させない事が目的ではなく、安全に失敗させて、それを上手くフォローしていくのが我々の役目である。